

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	青 森 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	青森県青森市立造道小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	3	4	4	0	23	32
児童数	118	104	128	113	134	119	0	716	

研究の概要

1. 研究主題

学ぶ知恵を身につけた子供を育てる学習指導のあり方

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

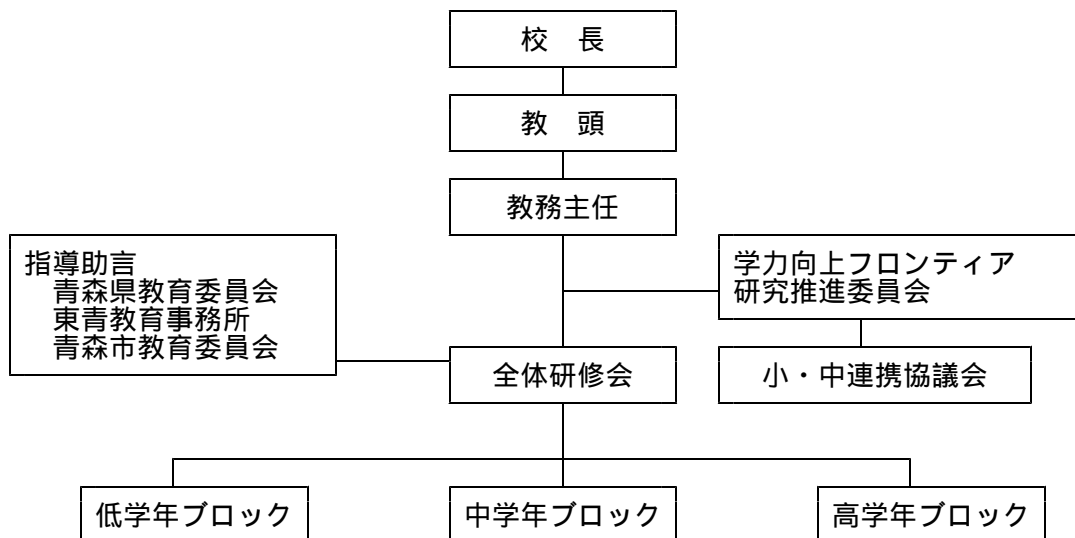
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1, 2年 生活科、図画工作科、国語科 3～6年 総合的な学習の時間 ・ 興味・関心に基づいた個人差に対応するため ・ 3～6年 算数科 ・ 児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため ・ 5, 6年 体育科、家庭科、理科、音楽科 ・ 各教科等の得意分野を生かすとともに複眼的な児童理解を図るため
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 学ぶ知恵を身につけた子供を育てる学習指導のあり方</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>児童の実態に応じた教材の開発や指導方法・指導体制の工夫をし、指導と評価の一体化を目指した授業づくりをすることで、学ぶ知恵を身につけた子供を育てることができるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>児童の実態に応じた教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> * 単元構成の工夫 <ul style="list-style-type: none"> 生活科・総合的な学習の時間を柱とした合科的・関連的な指導。 ・各教科等で培われた資質や能力を生かした指導計画、教材の工夫 * 理解や習熟の程度に応じた教材の開発 算数科における発展的な学習 <p>個に応じた指導を図るための指導体制・指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> * 指導体制の工夫 <ul style="list-style-type: none"> 少人数指導 (算数科) T・T (理科) 一部教科担任制(家庭科、体育科、音楽科) * 指導方法の工夫 <ul style="list-style-type: none"> 興味・関心別 (算数科、生活科、総合、国語科、理科等) 分かり方別 (算数科) * 使わせること、考えさせることを明確にした授業改善 見せ合い授業を通して指導力の向上を図る <p>学力の評価を生かした指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> * 診断的評価を通して 標準化された学力検査の実施、分析、指導の改善 事前に行うレディネステストによる実態把握 * 形成的評価を通して 子供の自己評価を生かした支援 授業(単元)における形成的評価を生かした支援 <p>中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> * 見せ合い授業(授業参観) * 学力分析による情報交換 * 体験学習 (6年生の中学校訪問、英語の体験授業)
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 学ぶ知恵を身につけた子供を育てる学習指導のあり方 研究の見通し(仮説) 児童の実態に応じた教材の開発や指導方法・指導体制の工夫をし、指導と評価の一体化を目指した授業づくりをすることで、学ぶ知恵を身につけた子供を育てることができるのではないか。</p> <p>研究の内容・方法 児童の実態に応じた教材の開発 * 単元構成の工夫 生活科・総合的な学習の時間を柱とした合科的・関連的な指導。 ・各教科等で培われた資質や能力を生かした指導計画、教材の工夫 * 理解や習熟の程度に応じた教材の開発 算数科における発展的な学習 個に応じた指導を図るための指導体制・指導方法の工夫 * 指導体制の工夫 少人数指導 (算数科・国語科) 一部教科担任制 (家庭科、体育科、音楽科) * 指導方法の工夫 興味・関心別 (算数科、生活科、総合、国語科、図画工作科、) 分かり方別 (算数科) * 使わせること、考えさせることを明確にした授業改善 見せ合い授業を通して指導力の向上を図る 学力の評価を生かした指導の改善 * 診断的評価を通して 標準化された学力検査の実施、分析、指導の改善 事前に行うレディネステストによる実態把握 * 形成的評価を通して 子供の自己評価を生かした支援 授業(単元)における形成的評価を生かした支援 中学校との連携 * 目指す子供像 * 指導体制、指導方法の工夫 * 日常の学習習慣 * 見せ合い授業(授業参観) * 学力分析による情報交換 * 体験学習 6年生(全員)の中学校訪問、英語の体験授業</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 児童の実態に応じた教材の開発

構想図をもとに生活科・総合的な学習の時間を柱とした合科的・関連的な指導を行うことにより、学んだことを生かし、意欲的に問題を追及し、解決していくことができた。【資料 2 参照】

発展的な学習について算数科においては、本校の考え方や内容のとらえ方について共通理解を図り、各学年、単元ごとに発展的な学習について事例集を作り、学習内容を十分身に付けた児童に対しても、きめ細かな指導ができるようになった。【資料 3 参照】

(2) 個に応じた指導を図るための指導体制・指導方法の工夫

学年の発達段階やブロックでの協力体制を考慮し、多様な指導形態を取り入れ、個に応じた指導を充実させるために加配教員の効果的な活用方法を考え出すことができた。【資料 4 参照】

算数科においては、事前テストから児童の実態を把握し「予習・復習コース」「順序よく・まるごとコース」「一人で・みんなでコース」など、児童にも指導する側にも授業像の分かるコースを設定した。そして、児童にコースを選択させ、個人差の少ない学習集団に再編成するとともに、そのコースにあった指導法についても工夫し、分かり方別(習熟度別)学習に取り組むことができた。【資料 5 参照】

少人数指導や分かり方別学習、興味・関心別学習など個に応じて指導体制・指導方法を工夫し、既習事項を生かした授業展開を心がけることで、単元終了後の児童の自己評価では、「算数の問題が自分で解けるようになった」という満足感や成就感を一人一人の児童に持たせることができた。

また、2学期の評定からどの学年においても9割以上の児童が、おおむね満足できる段階まで到達しており、個人差に応じたきめ細かな指導を行うことができた。

【4学年 算数科 単元名「わり算(2)」単元終了後の児童の自己評価より】
(ア) 勉強の進め方について (%)

項 目	1組	2組	3組	合計
いつもの少人数のクラスで勉強した方がよい	10	10	4	24
今のように自分たちでコースを選んで勉強した方がよい	18	19	23	60
どちらでもよい	6	5	5	16

(イ) 勉強したことについて (%)

項 目	1組	2組	3組	合計
わり算の筆算がどんどんできるようになった	11	17	12	40
わり算の筆算の仕方が分かり、自分でできるようになった	16	12	12	40
時間はかかるけど、前よりも自分でわり算の筆算ができるようになった。	7	5	8	20

【2学期の算数科の評定より】(%)

評 定	3年	4年	5年	6年
十分満足できる。(A)	59	80	53	56
おおむね満足できる。(B)	39	19	40	41
努力を要する。(C)	2	1	7	3

低学年においては、生活科などで特に、表現活動の場面で興味・関心別学習で取り組ませ、児童一人一人が主体的に活動したり、工夫したりするなど意欲を持続させることができた。

また、同じ思いを持った児童がグループを作り、活動することによって、進んで友達と関わり合って学ぶ姿が多く見受けられた。

自ら学び、自ら考える力を、身につけさせるために、児童に使わせること、考えさせることを明らかにし、向き合わせ方などを吹き出しに表した指導案を作成した。そうすることによって、教師主導の教え込む授業から大切なところは児童自身に発見させる授業へと授業改善を図ることができた。

【資料 5 参照】

(3) 学力の評価を生かした指導の改善

標準化された学力検査を実施し、結果を分析・活用することで重点的に指導すべき学習内容や個に応じた指導の充実を図ることができた。例えば、算数科においては、「数学的な考え方」を身につけさせることを重点事項として取り上げ、児童に問題解決的な学習を通して、既習事項を使って学習を進めていくよさに気づかせることができた。

算数科においては、特に自力解決場面で自分で間違いに気づいたときには、消しゴムで消さず、ばつを付けて思考の跡が残るようなノート指導に取り組んできた。

その結果、個別指導において児童の思考の流れに沿いながら、つまずきに対して適切な手立てを考じることができた。また、結果だけでなく、学びの過程を把握することができるので、個々について学ぶ方法や意欲、態度などを含めた評価ができ指導と評価の一体化を図ることができた。

さらに、児童にとっても自分の思考の道筋が確認でき、どこでつまずいたのか、どうしたらできるようになったのか学習を振り返り、自己評価能力を高めることにつながった。

【資料 1 参照】

(4) 中学校との連携

学力分析や日常の学習態度に関わる情報交換をすることによって、小学校における指導の重点化を図ることができた。

6年生の中学校訪問での体験学習は、スムーズな中学校への引き継ぎ、また興味・関心を高めるといった視点からも有効であった。

【資料 1】

11 25

① 60円のえんぴつ8本
20円のキップ8本

② 代金はいくら

③ 代金を2つの考えかたで、もとめよう。

④ べつべつにわけて

えんぴつ60円(8本)	キップ20円(8本)
60円	20円
$60 \times 8 = 480$	$20 \times 8 = 160$
$480 + 160 = 640$	640円

⑤ 1人分をまとめて

⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

② 1人分をまとめて

⑥ ええええええ
⑦ キキキキキキ

~~$60 + 8 = 68$ $28 + 8 = 28$~~

~~$68 + 28 =$~~

~~$20 + 8 = 28$ $28 \times 8 = 88$~~

~~$60 + 20 = 80$ $80 \times 8 = 640$~~

640円

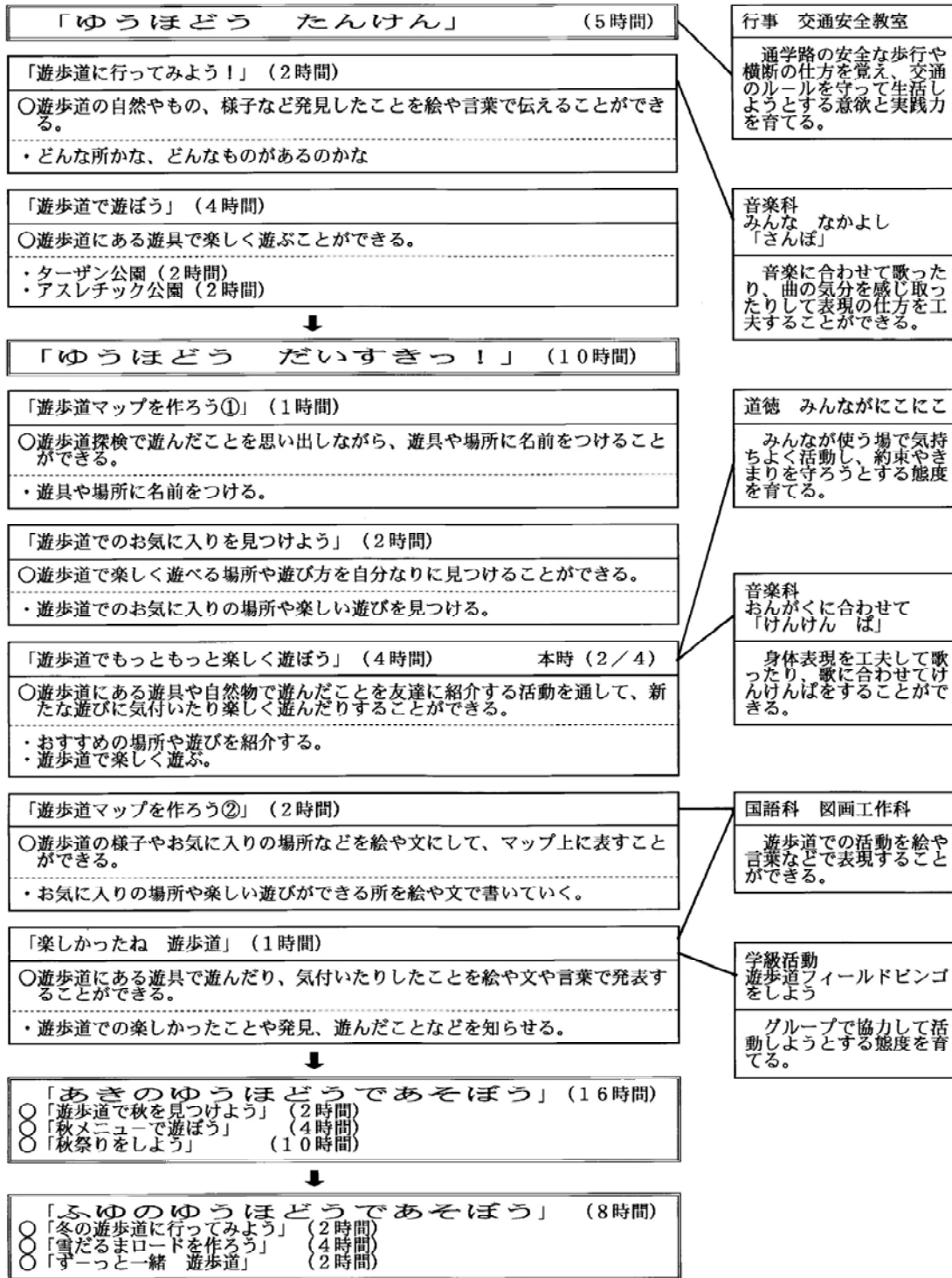
③ べつべつに、まとめたの二つ
④ やり方がある。まとめたの
⑤ 方か。わかりやすい

関連的な指導の構想

1年生 「ゆうほどうとなかよし」

(1) 意 図
本校学区にある自然豊かな遊歩道を活用し、年間を通してこの遊歩道を舞台にした単元を構成していく。生活科を中心として、道徳や国語科、図画工作科、音楽科との関連を図りながら指導することにより、自然のよさや季節を感じる豊かな心を育てたい。

(2) 活動の流れ



【本校のとらえ方】 本校の発展的な学習について

- (考え方)
- (1) 発展的な学習のねらいは理解の進んでいる子供の力をより伸ばすことである。発展的な学習を進めることによって学習していることへの理解を深め、「こんな時どうなるんだろう」「こんなこともできるのでは」という態度を育てる
 - (2) 発展的な学習のねらいを明確にし、児童の立場から学習内容が系統的、発展的に展開されるものを位置付ける
 - (3) 個に応じた指導に関する指導資料（文部科学省）、教科書（啓林館）の算数のまど（考えてみよう）、啓林館問題集資料などを活用する
- (内容)
- (1) 学習指導要領の範囲内で当該学年内における発展的な内容
 - (2) 学習指導要領の範囲内で次の学年以降の発展的な内容
 - (3) 学習指導要領の範囲を越える発展的な内容

【発展的な教材の具体的な例（6学年）】

【主な単元名】	1. 整数	6. 単量あたり	11. 分数のわり算
	2. 分数のたし算・ひき算	7. 比例	12. 割合を使って
	3. 立体	8. 変わり方を調べて	13. 比とその利用
	4. 計算の見積もり	9. 体積	
	5. 平均とその利用	10. 分数のかけ算	

- (1) 基礎・基本の上に新たなものを作り上げている学習
- (2) 基礎・基本を活用して問題を解決する学習
「個に応じた指導に関する資料 小学校算数編 文部科学省より」

【分類の観点】

- ① 桁数、項などを増やす
- ② 条件(数値、図形、場面など)を変える
- ③ 条件(数値、図形、場面、関係など)を複雑にする
- ④ 既習事項の場面を別の新たな観点(未習)から追究する
- ⑤ オープンエンド(答えが複数、決まりが複数)
- ⑥ 学習には関連性がないがトピックス的なもの
- ⑦ その他

単元名	発展的な内容	分類																					
1. 整数	<p>算数の歴史の良さを知るとともに粘り強る態度を養う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>5デシリットルと3デシリットルの二つの容器があります。この二つの容器で水を入れたり捨てたりして、4デシリットルの水を測りとるには、どのようにすればよいのでしょうか。</p> </div> <p>最小公倍数についてさらに理解を深めることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3つの公倍数も考えることができます。 4, 6, 9の公倍数を見つけましょう。 また、最小公倍数をいみましょう</p> </div> <p>カレンダーの数値の和を求める活動を通して、発展的に考える良さに気づく</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(1) このカレンダーの中で3つ続いた数の合計を求めましょう (2) 横3列、縦3列の正方形で囲まれた9つの数の合計を求めましょう</p> </div> <p>* 3つの並んだ数の和=真ん中の数×3. という決まりを見つけ、活用する学習</p> <p>数が同じとはどういうことなのか(1対1対応)を振り返り、数のおもしろさ・無限の不思議さを味わう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>数が同じとはどういうことですか (数が同じ)=(1対1対応) 整数と1対1対応=数が分かる 整数と偶数では、どっちが大きいですか</p> <table style="margin: auto; text-align: center;"> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td> </tr> <tr> <td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td> </tr> <tr> <td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td><td>10</td><td>12</td><td>14</td> </tr> </table> </div> <p>整数も偶数も同じ数だけ存在する(無限)</p>	1	2	3	4	5	6	7								2	4	6	8	10	12	14	⑥ ③ ⑥ ⑥
1	2	3	4	5	6	7																	
2	4	6	8	10	12	14																	

平成15年度少人数指導のための授業実施計画

1 実施の目的

- 多様な指導形態を取り入れ、個に応じた指導を充実させる。
 - ・個に応じた支援を充実させ学習意欲を高める。
 - ・わかり方別、課題別、興味関心別、少人数指導等、個に応じた指導を充実させ、基礎的・基本的内容の確実な定着を図る。

2 方法・実施計画

<算数>

- ・3学年は、学級内TTで指導を行う。学級担任と加配教員Aが指導に当たる。
- ・4学年は、学級数+2の等質集団に分けて、少人数指導を行う。学級担任と加配教員A及び教務主任が指導に当たる。
- ・5学年は、学級内TTで指導を行う。学級担任と加配教員Bが指導に当たる。
- ・6学年は、学級数+2の等質集団に分けて、少人数指導を行う。学級担任と加配教員B及び教頭が指導に当たる。

※TTによる指導を行う場合は、子どもの習熟や興味関心に応じてグループに分けたり等質グループによる少人数指導を取り入れたりする等、個に応じた指導を一層推進する。

※特定の単元をわかり方別、課題別等で実施する場合は、改めて集団を構成し直す。学級担任・加配教員・教務（教頭）が指導に当たる。なお、3・5学年は、時間割を変更して実施する。

<理科>

- ・5、6学年は、加配教員Cと学級担任とでTTによる指導を行う。

加配教員A週24時間（年間840時間）

	月	火	水	木	金
1	3-1 算	3-2 算	3-3 算	3-4 算	3-1 算
2	3-2 算	3-3 算	3-4 算	3-1 算	3-2 算
3	4年 算	4年 算	4年 算	3-2 算	4年 算
4	3-3 算	3-4 算	3-1 算	3-3 算	3-3 算
5	3-4 算	3-1 算	3-2 算	×	3-4 算
6	×			×	

<算数>

- 3年各学級5時間（20時間）
- 4年4時間（4時間）

加配教員B週24時間（年間840時間）

	月	火	水	木	金
1	5-1 算	5-2 算	5-3 算	5-4 算	5-1 算
2	6年 算	6年 算	6年 算	5-2 算	6年 算
3	5-2 算	5-3 算	5-4 算	5-1 算	5-2 算
4	5-3 算	5-4 算	5-1 算	5-3 算	5-3 算
5	5-4 算	5-1 算	5-2 算	×	5-4 算
6	×			×	

<算数>

- 5年各学級5時間（20時間）
- 6年4時間（4時間）

加配教員C週24時間（年間840時間）

	月	火	水	木	金
1	5-2 理		5-1 理		5-3 理
2	5-3 理	5-4 理	5-4 理	5-4 理	5-1 理
3	6-2 理	5-2 理	6-2 理	5-3 理	6-1 理
4	6-4 理	5-1 理	6-1 理	5-2 理	6-2 理
5	6-1 理	6-3 理	6-4 理	×	6-3 理
6	×	6-4 理	6-3 理	×	

<理科>

- 5年各学級3時間（12時間）
- 6年各学級3時間（12時間）

3 配慮事項

- (1) 各学年で、特別教室の割り当て等を考慮して、各学級の時間の組み方を検討する。
- (2) 4学年は、国語から算数に年間10時間充てる。学級担任が指導する。
- (3) 5学年は、理科から総合へ年間10時間充てる。学級担任（加配教員C）が指導する。
- (4) 6学年は、理科から算数に年間10時間充てる。学級担任（加配教員C）が指導する。
- (5) 3、5学年は、算数から総合に年間25時間充てる。加配教員ABも指導に加わる。

復習コース

第4学年 算数科学習指導案

平成15年11月 7日(金) 3校時

対象 4年 16名

指導者 武井 秀雄

「分かり方別指導 復習コース」

1 単元名

「わり算(2)」 (1/11)

2 ねらい

(何十) ÷ (何十) で商が1けたになる計算を10のまとまりとして考えることで、既習である1桁÷1桁の計算に置き換えて、九九を使って暗算で解くことができる。

【使わせること】 ○九九	学習 過程	向き合わせ方 (教材、教材提示の仕方、発問、指示など)
○わり算の意味 (包含除) ○九九一回適用の除法 ・あまりがない場合 ・あまりがある場合 ○÷ (1位数) で商が何十になる 計算 ↓ ↑	導入	<p>・フラッシュカードを使って、九九や九九一回適用の除法について復習する。</p> <p>・プリントを使って、あまりのあるわり算について答えの確かめも含めて復習する。(5問) (例) $9 \div 4 = 2 \cdots 1$ $4 \times 2 + 1 = 9$</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題 80円であめを買います。 1こ10円だったら、何本買えるでしょう。</p> </div> <p>もしも、8円だったら何本買えるかな</p> <p>・式 $80 \div 8 = 10$ 答え10本</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>もしも、①20円 だったらどんな式になるのかな</p> </div> <p>・式 $80 \div 20$</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>問題 (何十) ÷ (何十) の計算の仕方を考えよう</p> </div> <p>展開 10円玉の個数で考えてみよう 考え1</p> <p>・①10円玉で考えると、 式 $80 \div 20$ 確かめ $20 \times 4 = 80$ $8 \div 2 = 4$ (答え 4本)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>もしも、②30円 だったらどうなるのかな</p> </div> <p>・②同じく、10円玉で考えると、 式 $80 \div 30$ 確かめ $30 \times 2 + 2 = 62$ $8 \div 3 = 2 \cdots 2$</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>2円あまるでいいのかな</p> </div> <p>・10円玉が2個あまるから20円 (答え2本あまり20円)</p> <p>練習 ① $60 \div 30$ ② $50 \div 20$ ③ $90 \div 40$ (3問)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ (何十) ÷ (何十) の計算は、10のまとまりで考えて九九を使って暗算で計算することができる。</p> </div> <p>(何十) ÷ (何十) の計算を九九を使って暗算で計算できるようになったか 【表現・処理】 ワークシート</p>
【つまずきに対する手立て】 ○ $80 \div 20$ で20円ずつ分けるということが理解できない子に対して、実際に半具体物を使って分けさせて、その結果から4本買えることに気付かせる。 ○ $80 \div 30 = 2 \cdots 2$ と考えた子に対して、確かめ算をさせたり半具体物を操作させたりして、あまりが20円になることに気付かせる。 ○ 自力解決ができた子に対しては類似の問題を解かせ、10のまとまりで考えるよさに気付かせるようにする。		

予習コース

第4学年 算数科学習指導案

平成15年11月7日(金)3校時

対象 4年生 22名

指導者 三上 智



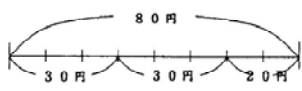
「分かり方別指導 予習コース」

「わり算(2)」 (1/11)

1 単元名

2 ねらい

(何百何十) ÷ (何十) で商が1位数になる計算を10のまとまりとして考えることで、既習である2桁 ÷ 1桁の計算に置き換えて、九九を使って暗算で解くことができる。

【使わせること】	学習過程
<p>○九九</p> <p>○わり算の意味 (包含除)</p> <p>○九九1回適用の除法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまりがない場合 ・あまりがある場合 <p>○÷ (1位数) で商が何十になる計算</p> <p>○面積図、線分図の使い方</p> <p>○筆算のやり方</p>	<p>向き合わせ方 (教材、教材提示の仕方、発問、指示など)</p> <p>導入</p> <p>課題 $80 \div 8 = 10$ $80 \div 20 = ?$ $80 \div 30 = ?$</p> <p>問題 何十でわるわり算はどうしたらできるだろう</p>
<p>↓ ↑</p> <p>【考えさせること】</p> <p>考1</p> <p>(何十) ÷ (何十) で商が1けたになる計算の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割り切れる場合 ・割り切れない場合 <p>考2</p> <p>除数が何百何十で商が1けたになる計算の仕方</p>	<p>展開</p> <p>「どう考えたらいいですか」 考1</p> <p>「自分なりの方法でやってみよう」 考1</p> <p>A 十円玉の個数で考える子 </p> <p>B 面積図で考える子 </p> <p>C 線分図で考える子 </p> <p>D 筆算に挑戦する子 $\begin{array}{r} 2 \\ 30 \overline{) 80} \\ \underline{60} \\ 20 \end{array}$</p> <p>「ほかの友だちのやり方でも考えてみよう」 考え1</p> <p>「何百何十をわるときはどうなるだろう」 考え2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十円玉の個数で、同じように計算できる ・面積図でも線分図でも、同じになる。
<p>【つまづきに対する手立て】</p> <p>○ $80 \div 30 = 2 \dots 2$ と考えた子に対して、確かめ算をさせたり、半具体物を操作させたりして、あまりが20円になることに気づかせる。</p> <p>○ 除数が何百何十の計算につまづいた子に対して、何十のときと同じように10のまとまりで考えればよいことに気づかせる。</p>	<p>まとめ</p> <p>十円玉の個数や面積図や線分図や筆算で、80の中に30がいくつあるか考える。8 ÷ 3 と考える。割られる数が何百何十でも、同じ考え方でできる。</p> <p>(何百何十) ÷ (何十) の計算を九九を使って計算できるようになったか 【表現・処理】 ワークシート</p>

2. 今後の課題

(1) 児童の実態に応じた教材の開発

生活科において各教科等で培った資質や能力を生かしつつ、児童の興味関心に基づいた教材の開発をする。また、他の教科についても児童の興味関心に基づいた教材を開発していく。

算数科において15年度作成した各学年の発展的な学習について実践を通して加除修正していく。

(2) 個に応じた指導を図るための指導体制・指導方法の工夫

算数科における少人数指導のよさを生かし、他の教科にも発展させていく。特に各教科等の学習を支える読み、書きを考慮し、国語科での実践を視野に入れ、指導体制・指導方法を検討する。

個に応じた指導の充実を図るため、学習集団を編成する判断基準を明確にするとともに、その集団にあった指導方法を研究していく。

読み、書き、計算の定着を図るため、全校体制での取り組み方を検討する。
(内容・時間等)

(3) 中学校との連携

授業参観や体験学習等、一時的な連携だけでなく年間を見通したもの、例えば、目指す子供像、指導体制・指導方法、日常の学習指導等で共通理解を図り、連携を深めていく。

学力等把握のための学校としての取組

1. 算数科においてC R T教研式標準学力検査の実施(4月)

- (1) 児童の実態把握
- (2) 不十分な既習事項の定着指導
- (3) 指導の重点の明確化

2. 国語科、社会科、算数科、理科(1・2年生は国語科と算数科)においてC R T教研式標準学力検査の実施(2月)

- (1) 児童の学力の定着度の把握
- (2) 不十分な既習事項の定着指導

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 平成15年 9月26日(金) 東青管内小中学校校長研究協議会 「学力向上フロンティアスクール」の実施について概要説明

2. 「学力向上フロンティアスクール」の中間報告として資料作成 地区の学校への配布

3. 地区内の学校の要請に応じて「学力向上フロンティアスクール」の実施について概要説明

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--|--|--|--|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 6学級以下 | <input type="checkbox"/> 7～12学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 13～18学級 | <input checked="" type="checkbox"/> 19～24学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 25学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 一部教科担任制 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | <input type="checkbox"/> 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 生活 | <input checked="" type="checkbox"/> 音楽 | <input checked="" type="checkbox"/> 図画工作 | <input checked="" type="checkbox"/> 家庭 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| | | | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |